



2025 年 11 月 13 日

東海電子株式会社

業務用呼気アルコール検知器（東海電子製）

ホワイトペーパー 2025 年版のお知らせ

自動点呼システム、運行管理システム、安全運転管理システム、労働安全衛生システムを開発・販売する東海電子株式会社(本社：静岡県富士市 代表取締役 杉本哲也)は、この度、最新の業務用呼気アルコール検知器（東海電子製）の納入先業種・機種レポート 2025 年版（2003～2025 年分）を発行致しました。

1. 呼気アルコール検知器 納入先業種・機種レポート

本レポートは、当社の呼気アルコール検知器の 2025 年度の単年実績および 2003 年に発売してから 22 年間の実績を、業種や機種ごとに取りまとめてお知らせするものです。

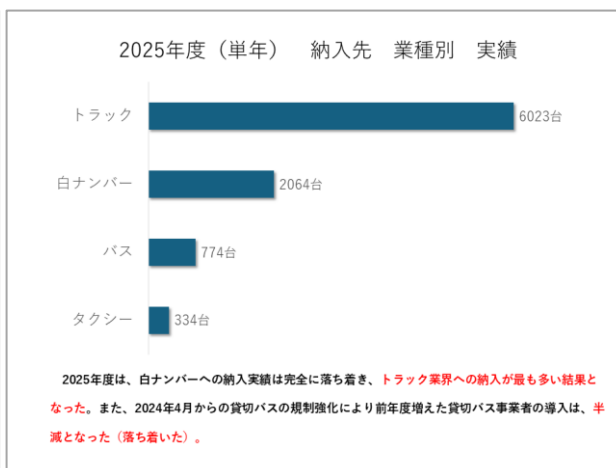
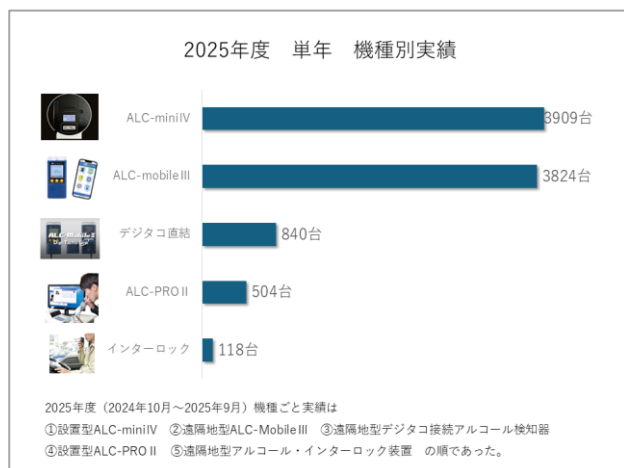
当社の呼気アルコール検知器の導入実績は累計 13 万台を超えました。設置型・遠隔地型、機種別等、記録型等、さまざまなタイプのアルコール検知器のそれぞれの販売トレンドや、業種ごとの導入傾向等をご確認いただけます。

本資料は自社製品に限っての情報ではあるものの、業務用アルコール検知器の黎明期から、2011 年の緑ナンバーのアルコール検知器義務化前後、2023 年の白ナンバーアルコール検知器義務化前後等、市場の変化を概況的に表しており、行政、消費者におかれましては、「呼気アルコール検知器の産業史」と捉え、より一層「飲酒運転防止機器」の社会的存在意義を感じ取っていただければ幸いです。



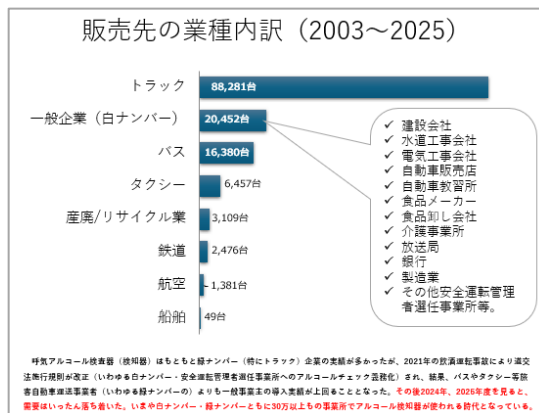
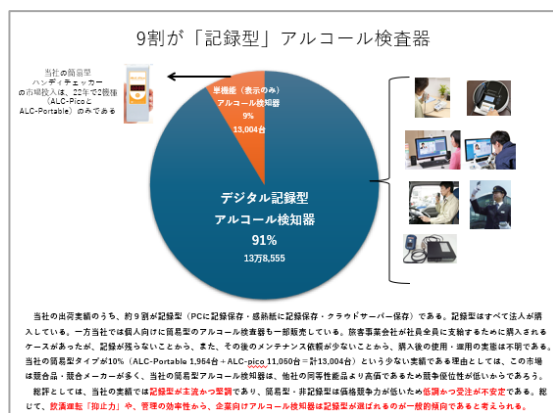
2. 単年（2025 年）の機種別、業種別累実績

2025 年の単年度集計では、機種別実績に加え緑ナンバー・白ナンバー別等績もご確認いただけます。

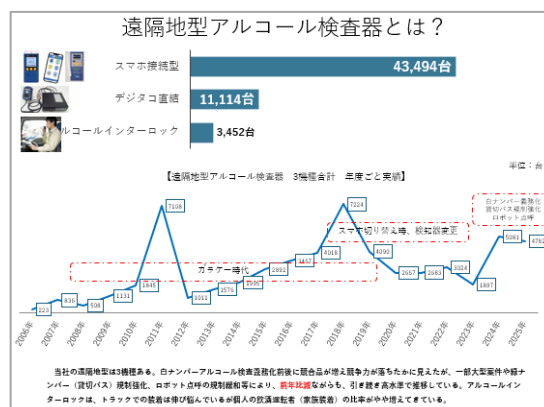
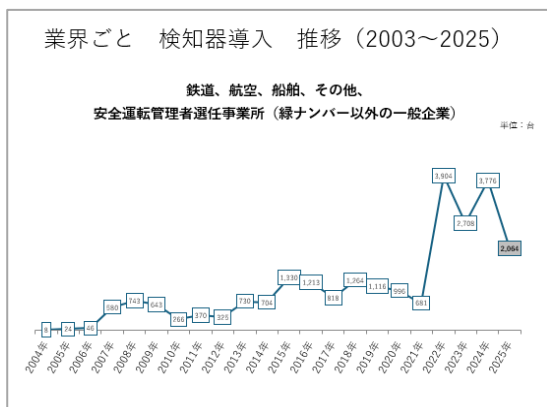
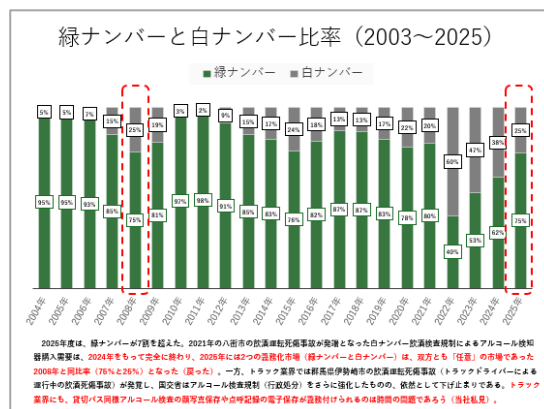
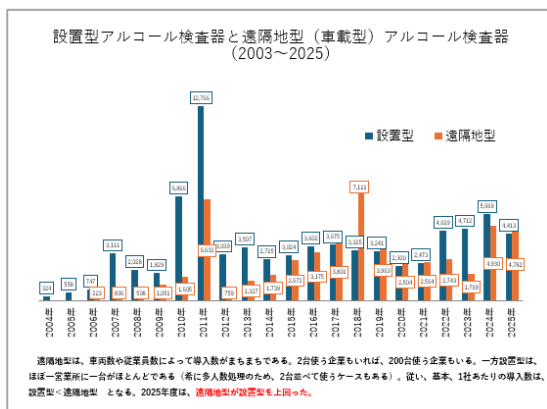


3. 累計(2003～2025)の機種別、業種別実績

本レポートにより 2003 年以降の 22 年間の納入先業種や機種をご確認いただけます。例えば当社の場合、個人向けの簡易型アルコール検知器は 1 割程度であり、9 割が「デジタル記録型」です。



また、白ナンバーと緑ナンバーの年ごとの推移や、設置型アルコール検知器と遠隔地型アルコール検知器の増加や減少の状況もご確認いただけます。



本件に関する問い合わせ先：東海電子株式会社 営業企画部

東京都立川市曙町 2-34-13 オリニピック第3ビル 203

E-mail: kikaku@tokai-denshi.co.jp

<http://www.tokai-denshi.co.jp>

2025

業務用呼気アルコール検知器（東海電子製）

ホワイトペーパー 2025 年版

納入先業種・機種レポート 2025



“ 飲酒運転をゼロに ”

Since 2003

東海電子株式会社 Tokai-Denshi inc

Date of issue : 12th-Nov-2025

2025年版

東海電子製 呼気アルコール検知器

ホワイトペーパー

～ 納入先業種と機種について～

適用

本文書における統計はすべて、東海電子株式会社の自社調べによるものです。

本文書は、安全運転管理者選任事業所やその他一般事業者、運輸事業者等が、呼気アルコール検査器（検知器）を法人として導入する際に、導入目的に応じた適切な機種選択の参考情報となることを意図しています。

また、一般消費者におかれましても、飲酒運転をゼロにする技術・テクノロジーという観点で、個人向けの呼気アルコール検査器（検知器）と事業者向けの呼気アルコール検査器（検知器）との差異について興味を持ち、知見を広めていただき、ひいては飲酒運転ゼロ活動への理解を深めて頂く手助けになればと考えております。

各種メディア様、行政におかれましても、一般法人企業や運輸関連企業がどのような種類の呼気アルコール検知器を使用しているか、アルコール検知器業界の実態把握の参考として、どうぞご自由にお使いください。

1

東海電子（株）呼気アルコール検知器

2025年度（単年）実績について

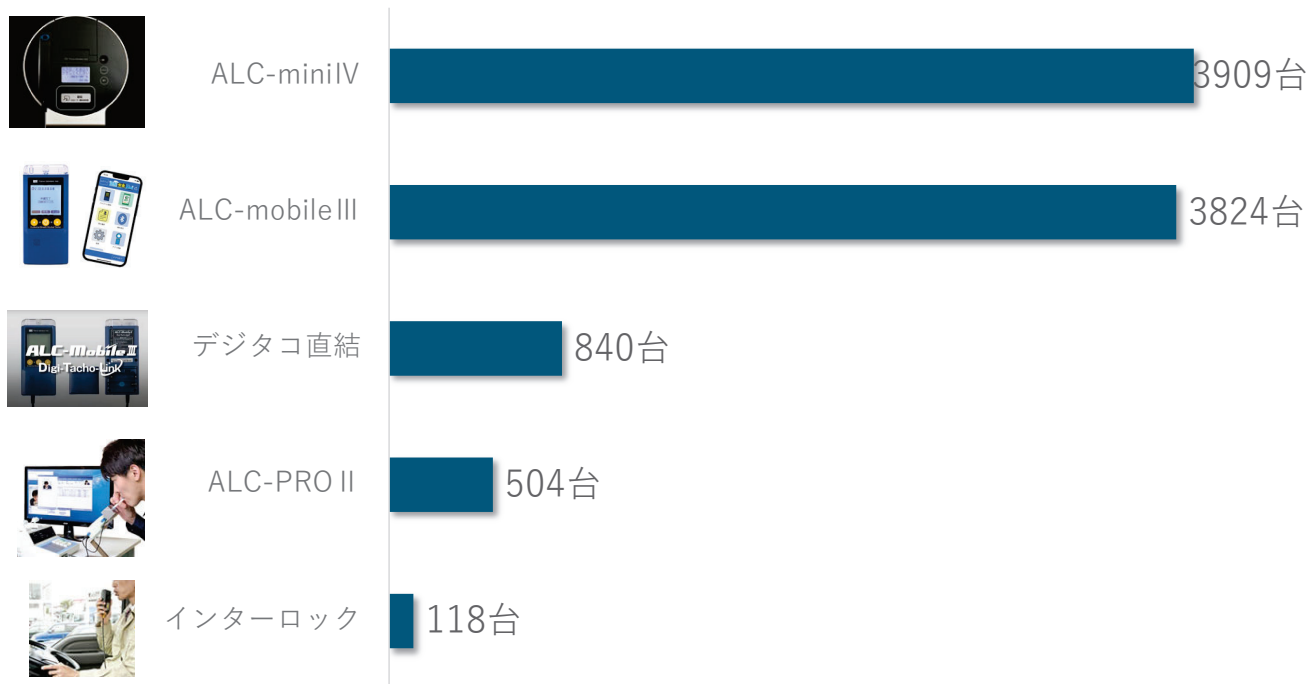
（2024年10月1日～2025年9月30日）

東海電子 2025年度
（2024年10月～2025年9月）

アルコール検知器・点呼システム関連 外部環境Topics

◆2025年04月：点呼告示 改正（業務前自動点呼開始）

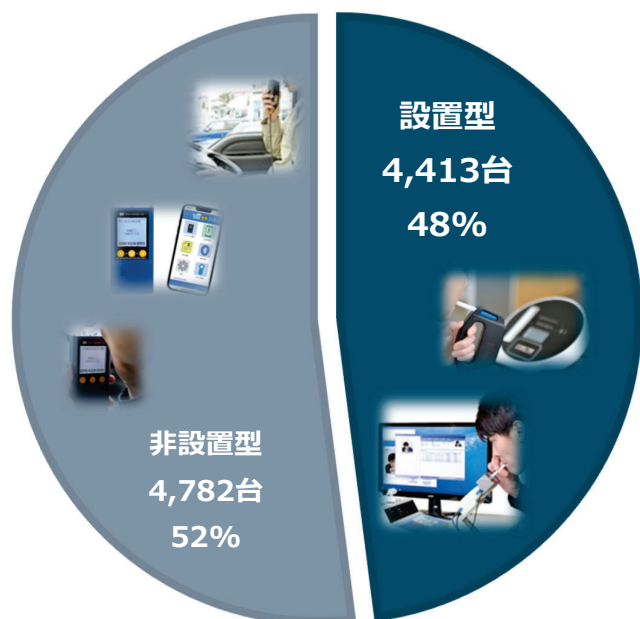
2025年度 単年 機種別実績



2025年度（2024年10月～2025年9月）機種ごと実績は

- ①設置型ALC-miniIV ②遠隔地型ALC-Mobile III ③遠隔地型デジタコ接続アルコール検知器
④設置型ALC-PRO II ⑤遠隔地型アルコール・インターロック装置 の順であった。

2025年度 単年機種別実績（設置型と非設置型・遠隔地型）



○当社のアルコール検知器は、2つのタイプがある。

- 1) 設置型：主に事務所に据え置いて、10名から数百名が共用して使用するもの。PC接続タイプ、スタンドアロンタイプ等がある。
- 2) 非設置型：持ち運びが出来て遠隔地で使用したり、車両に装着して使用するもの。スマートフォン接続型、アルコールインターロック型、デジタコ・ドラレコ等車載器に接続するタイプ。遠隔地型とも言い換えられる。

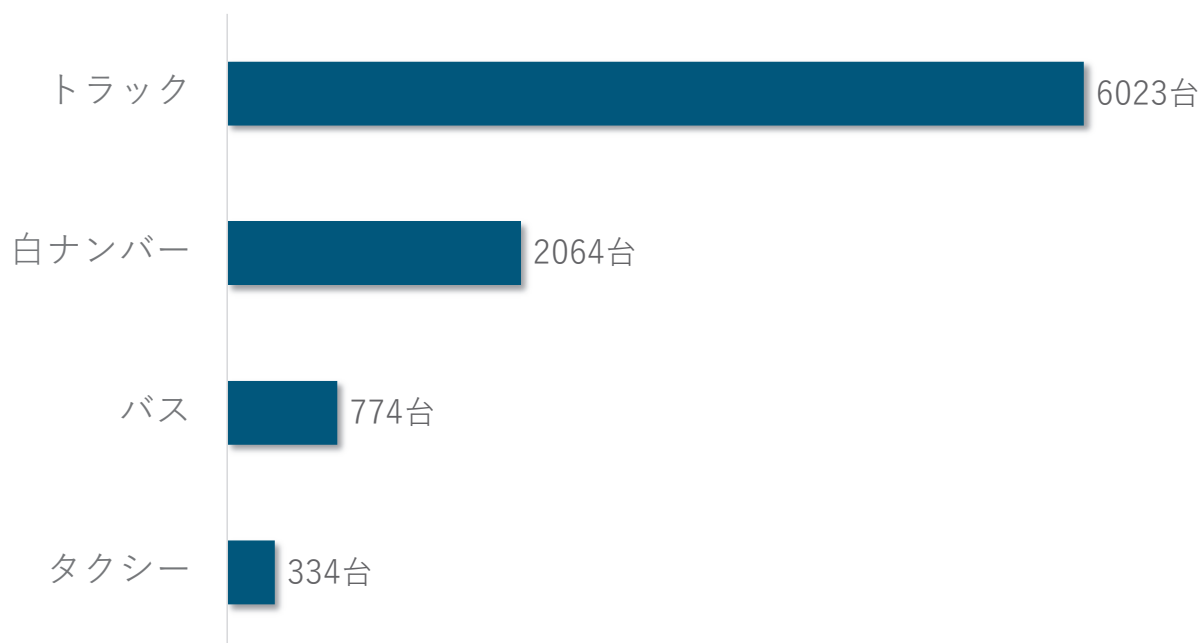
○2025年度、比較的安価なスマートフォン対応のアルコール検知器や車載型のアルコール検知器が設置型をやや上回り**52%（4782台）**の実績であった。

○一方、昨年は非設置型よりも多かった設置型アルコール検知器は今年度、非設置型3機種より若干少ない**48%（4413台）**となった。

<総評>

- 1) スマホ対応型アルコール検知器は競合品が多くかつ、当社の方が売価が高く価格優位性が低いながらも健闘していると言える。
- 2) 設置型アルコール検知器は、1台で多人数に対応できるため、コストパフォーマンスは良いと認識されているものの、結果的には前年度がピークであり、明らかに息切れ感がある。

2025年度（単年） 納入先 業種別 実績



2025年度は、白ナンバーへの納入実績は完全に落ち着き、**トラック業界への納入が最も多い結果となった**。また、2024年4月からの貸切バスの規制強化により前年度増えた貸切バス事業者の導入は、**半減となった（落ち着いた）**。

2

東海電子（株）呼気アルコール検知器

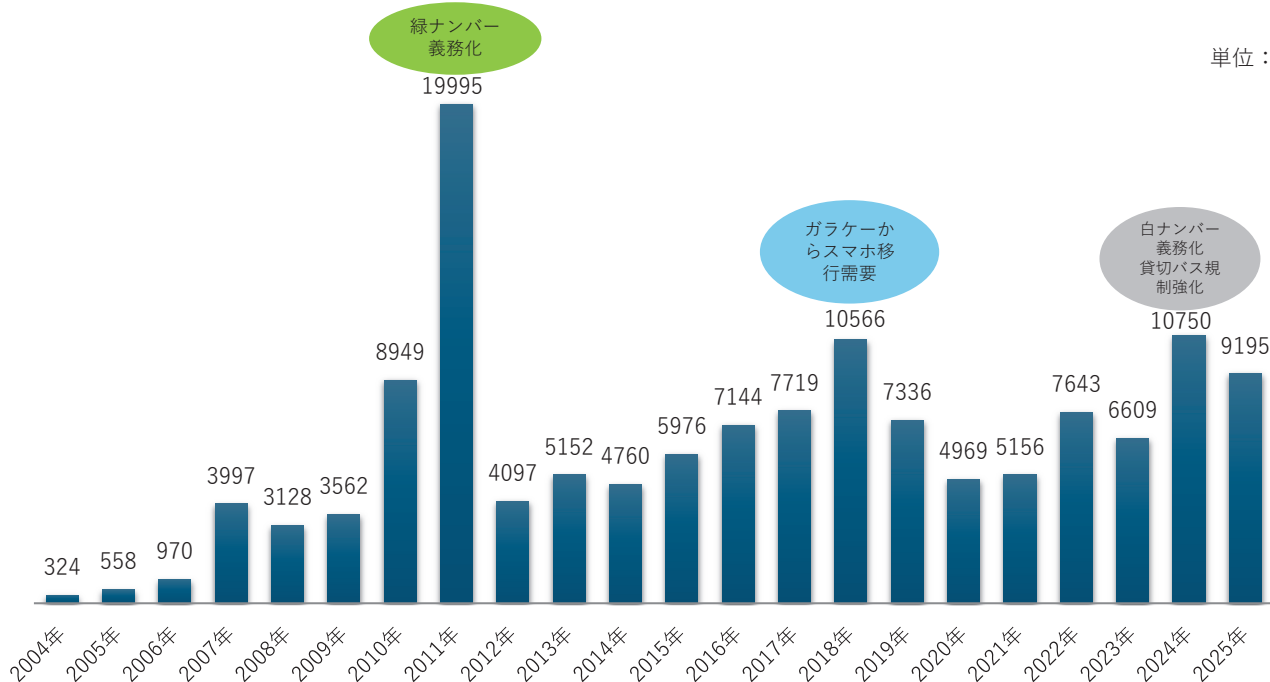
納入先業種と機種について

2003年～2025年累計

（2003年10月～2025年9月30日）

東海電子 法人向け記録型アルコール検査器 2003年10月～2025年9月 累計 13万8,555台

単位：台

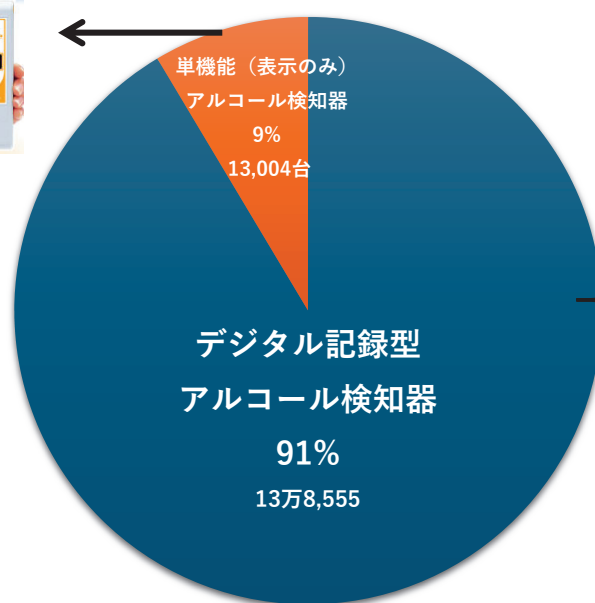


上記は、ALC-PRO I II, ALC-Mini I II III IV, ALC-Mobile I II III, ALC-Touch, ALC-Portable, ALC-Zero I II, デジタル直結型の新規出荷総数の合計である。（簡易型個人向けALC-Picoおよびセンサー校正交換数は含まない）

当社は、2003年10月から、バス、タクシー、トラック、産廃事業者、鉄道、航空、船舶、その他一般企業へ法人向けに特化したアルコール検査器を出荷している。2025年9月末時点、22年間で累計13万8555台となった。（校正は除く本体出荷数）

9割が「記録型」アルコール検査器

当社の簡易型
ハンディチェッカー
の市場投入は、22年で2機種
(ALC-Picoと
ALC-Portable) のみである

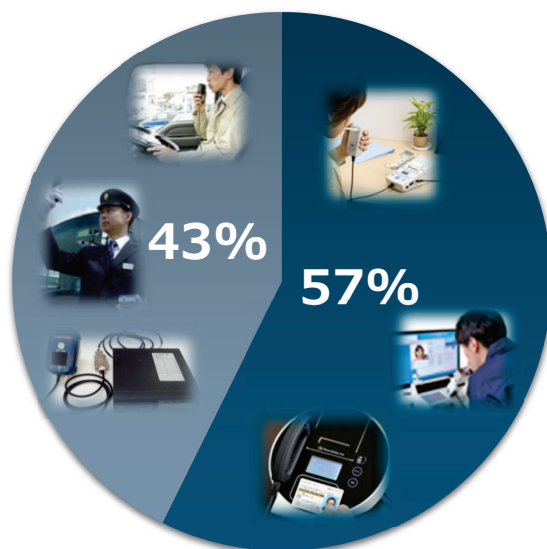


当社の出荷実績のうち、約9割が記録型（PCに記録保存・感熱紙に記録保存・クラウドサーバー保存）である。記録型はすべて法人が購入している。一方当社では個人向けに簡易型のアルコール検査器も一部販売している。旅客事業会社が社員全員に支給するために購入されるケースがあったが、記録が残らないことから、また、その後のメンテナンス依頼が少ないことから、購入後の使用・運用の実態は不明である。当社の簡易型タイプが10%（ALC-Portable 1,954台 + ALC-pico 11,050台 = 計13,004台）という少ない実績である理由としては、この市場は競合品・競合メーカーが多く、当社の簡易型アルコール検知器は、他社の同等性能品より高価であるため競争優位性が低いからであろう。総評としては、当社の実績では記録型が主流かつ堅調であり、簡易型・非記録型は価格競争力が低いため低調かつ受注が不安定である。総じて、飲酒運転「抑止力」や、管理の効率性から、企業向けアルコール検知器は記録型が選ばれるのが一般的傾向であると考えられる。

出荷内訳 対面点呼用、電話点呼用 (2003～2025)

■ 設置・固定型アルコール検査器

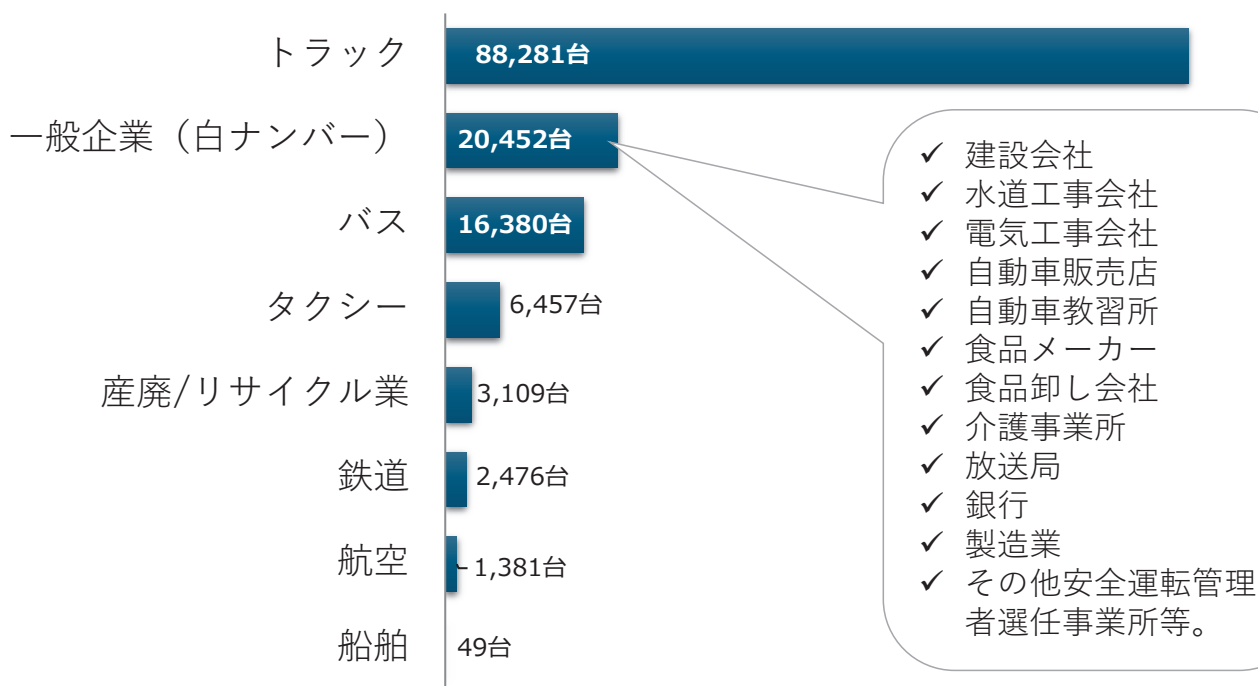
■ 遠隔地型アルコール検査器



設置型 78,543台
遠隔地型 60,014台

当社の業務用呼気アルコール検知器ALCシリーズは、点呼用途で言うと、大きく、対面点呼やIT点呼用の「記録式・設置型」と、遠隔地記録式（車載含む）に分けられる。**アルコール検査の運用初期は事務所管理型がまず導入され、その後、遠隔地型が導入されるケースが多く見られる。**どちらかを、というより、結果的には両方を導入し、場面（目的、運行形態）に応じて使い分ける「複数機種併用」が一般的である。

販売先の業種内訳 (2003～2025)

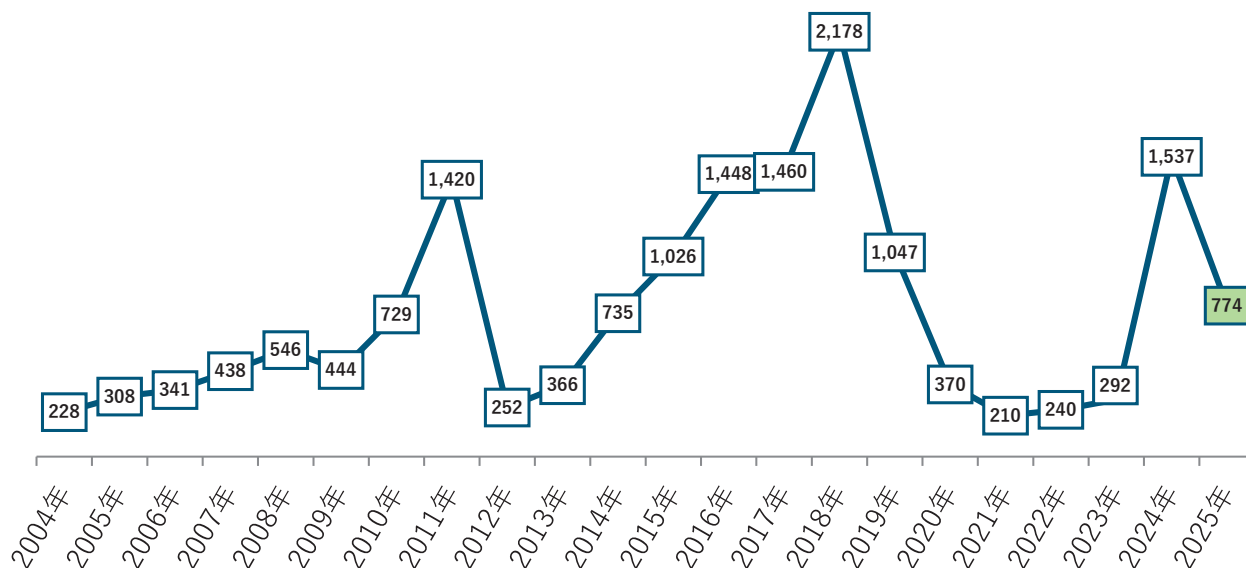


呼気アルコール検査器（検知器）はもともと緑ナンバー（特にトラック）企業の実績が多かったが、2021年の飲酒運転事故により道交法施行規則が改正（いわゆる白ナンバー・安全運転管理者選任事業所へのアルコールチェック義務化）され、結果、バスやタクシー等旅客自動車運送事業者（いわゆる緑ナンバーの）よりも一般事業主の導入実績が上回ることとなった。**その後2024年、2025年度を見ると、需要はいったん落ち着いた。いまや白ナンバー・緑ナンバーともに30万以上もの事業所でアルコール検知器が使われる時代となっている。**

業界ごと 検知器導入 推移（2003～2025）

バス

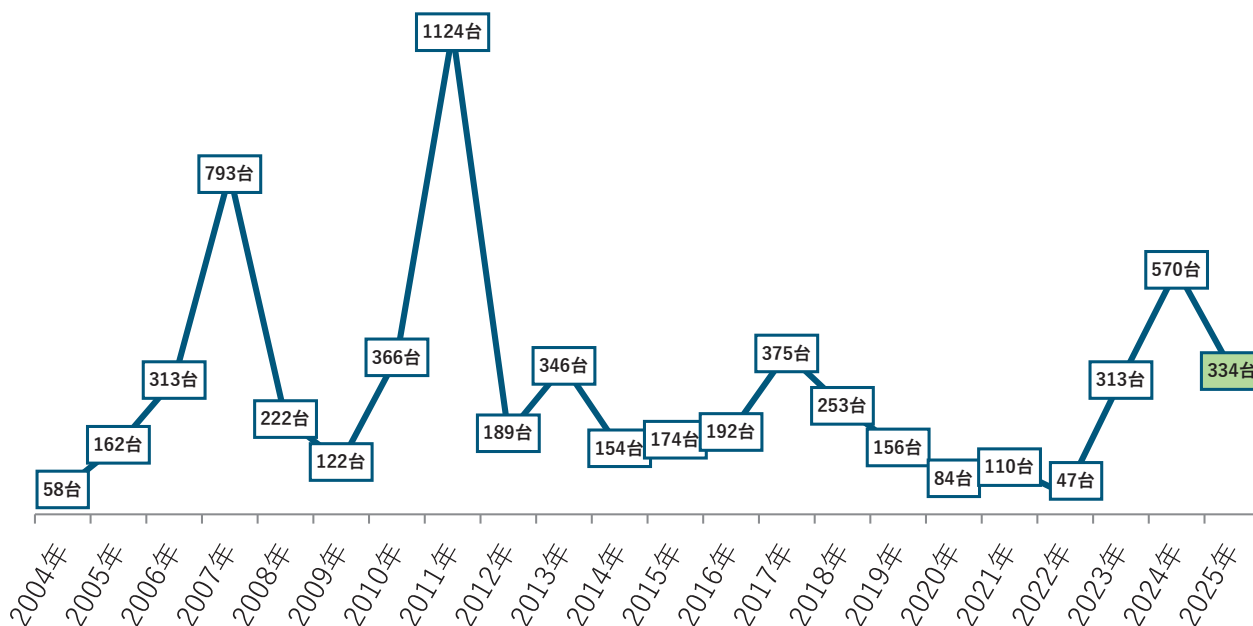
単位：台



業界ごと 検知器導入 推移（2003～2025）

タクシー

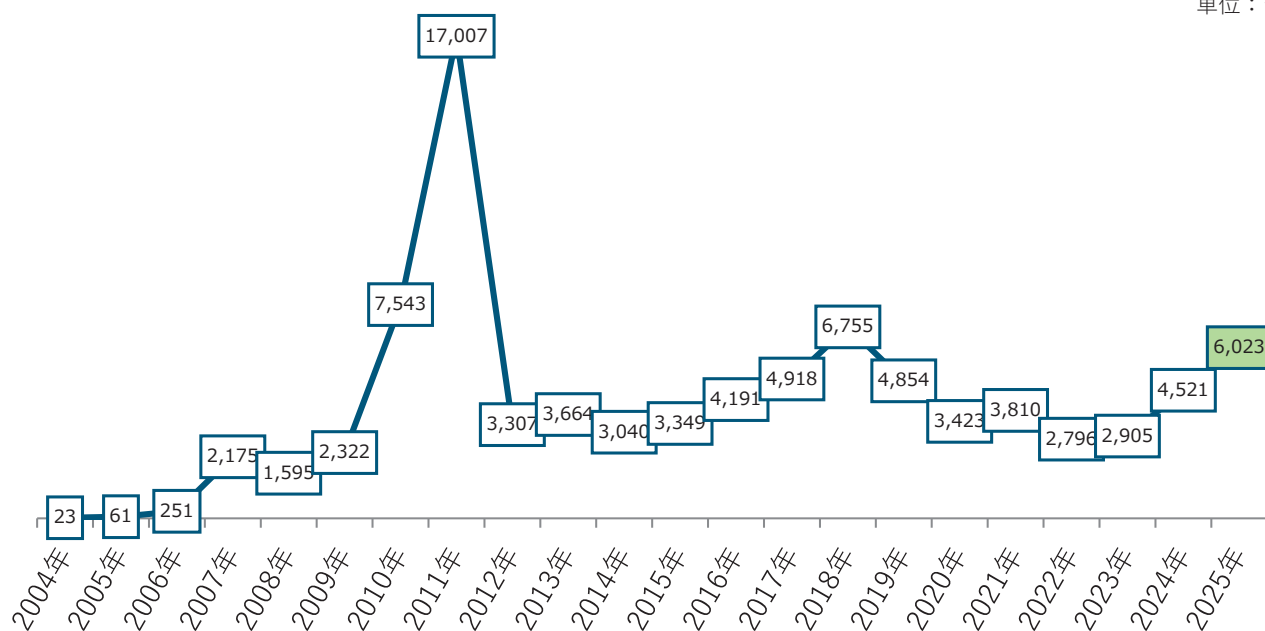
単位：台



業界ごと 検知器導入 推移（2003～2025）

トラック

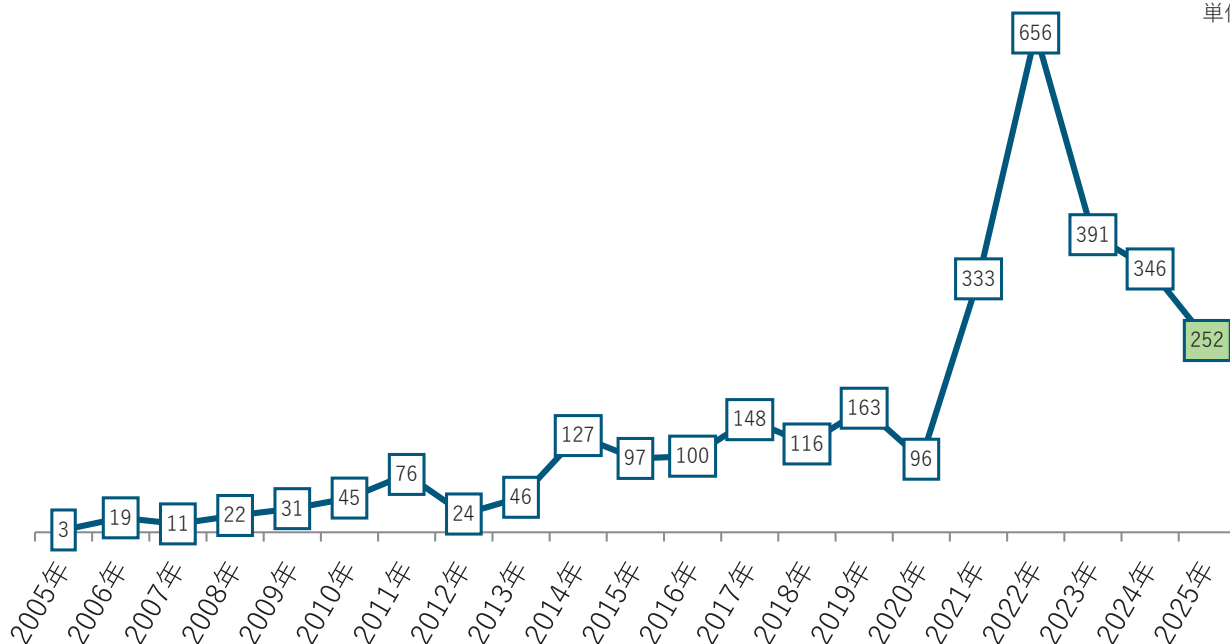
単位：台



業界ごと 検知器導入 推移（2003～2025）

産業廃棄物収集運搬・リサイクル業

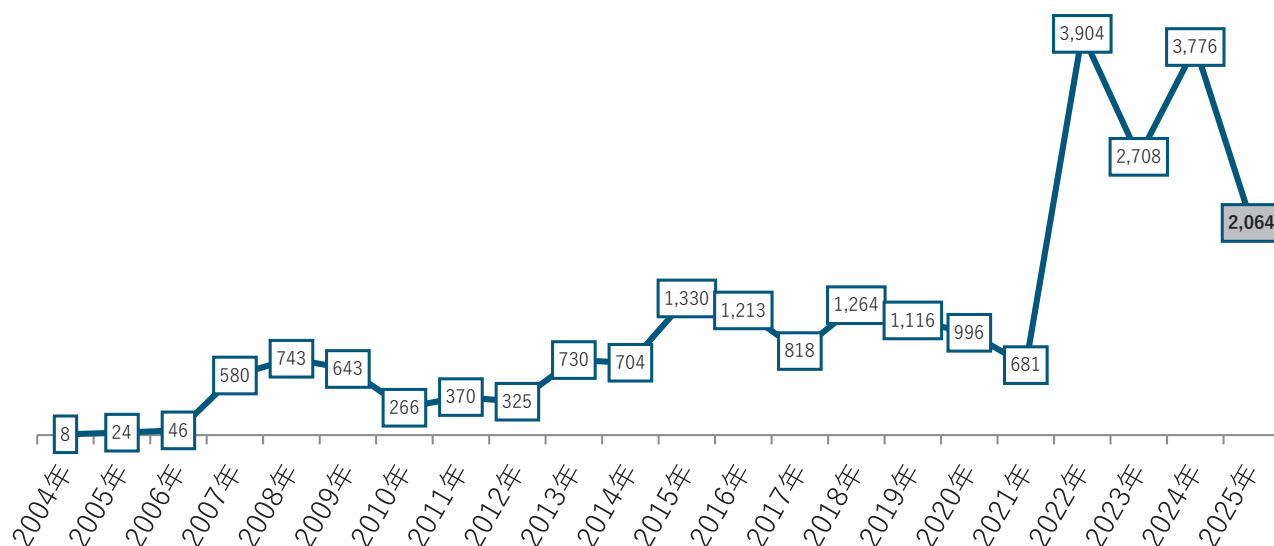
単位：台



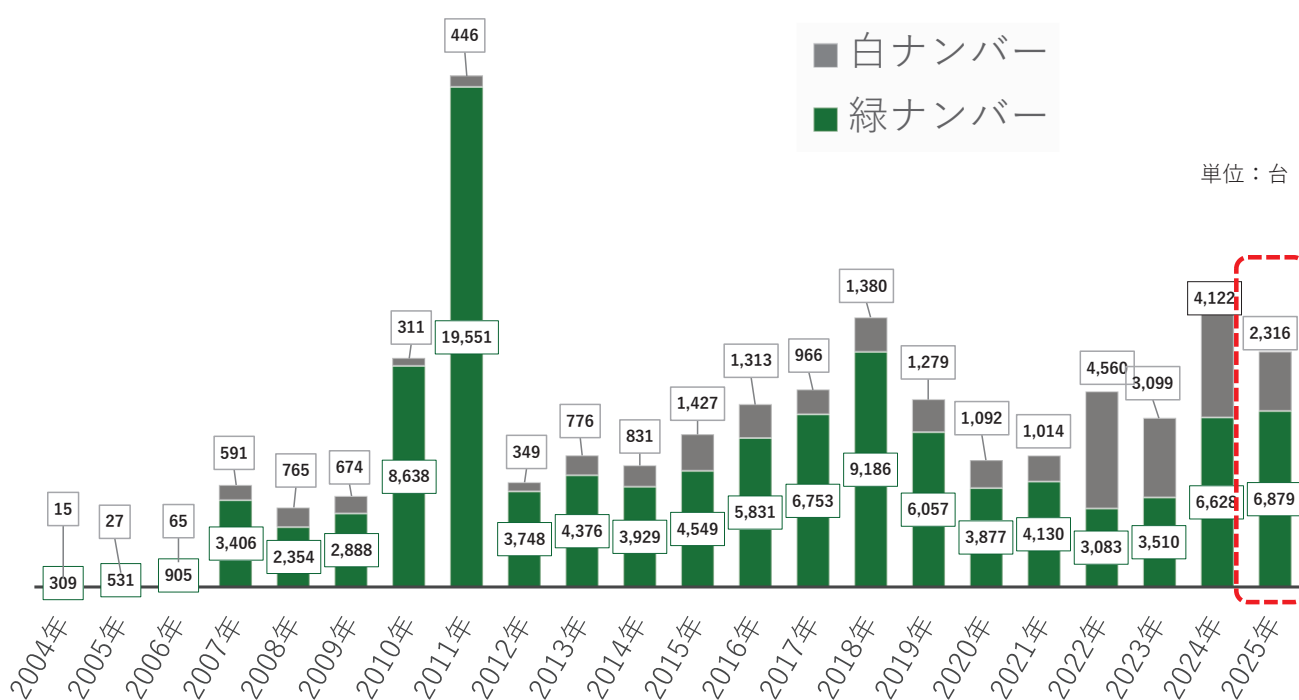
業界ごと 検知器導入 推移（2003～2025）

鉄道、航空、船舶、その他、
安全運転管理者選任事業所（緑ナンバー以外の一般企業）

単位：台



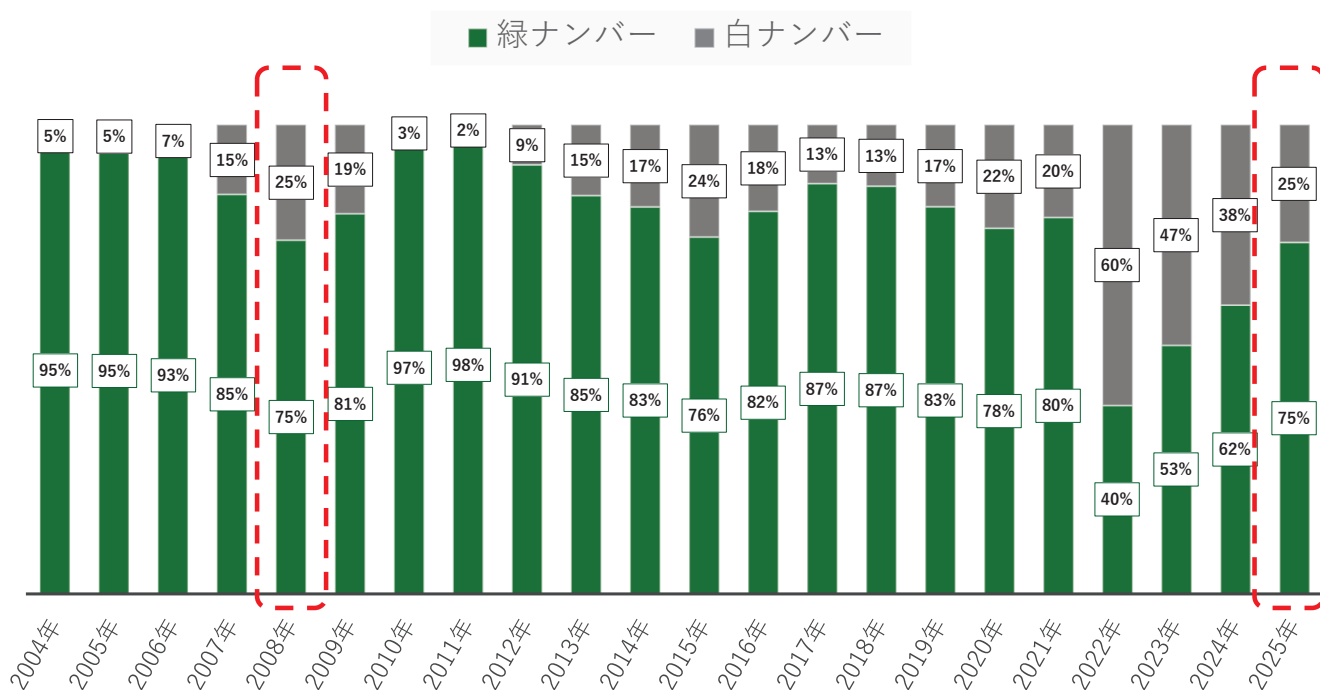
緑ナンバーと白ナンバー比率（2003～2025）



2025年度は、全般的にアルコール検知器・飲酒運転防止に関する改正等のトピックはなかった。

白ナンバー実績は前年からほぼ半減、完全に落ち着いた。緑ナンバーは前年比微増。全体として前年比減ながらも大きな減少というほどではなく、10年前と比べるとむしろ堅調と言えよう。

緑ナンバーと白ナンバー比率（2003～2025）



2025年度は、緑ナンバーが7割を超えた。2021年の八街市の飲酒運転死傷事故が発端となった白ナンバー飲酒検査規制によるアルコール検知器購入需要は、2024年をもって完全に終わり、2025年には2つの義務化市場（緑ナンバーと白ナンバー）は、双方とも「任意」の市場であった2008年と同比率（75%と25%）となった（戻った）。一方、トラック業界では群馬県伊勢崎市の飲酒運転死傷事故（トラックドライバーによる運行中の飲酒死傷事故）が発覚し、国交省はアルコール検査規制（行政処分）をさらに強化したものの、依然として下げ止まりである。トラック業界にも、貸切バス同様アルコール検査の顔写真保存や点呼記録の電子保存が義務付けられるのは時間の問題であろう（当社私見）。

機種ごと推移（設置型 ALC-PRO シリーズ）



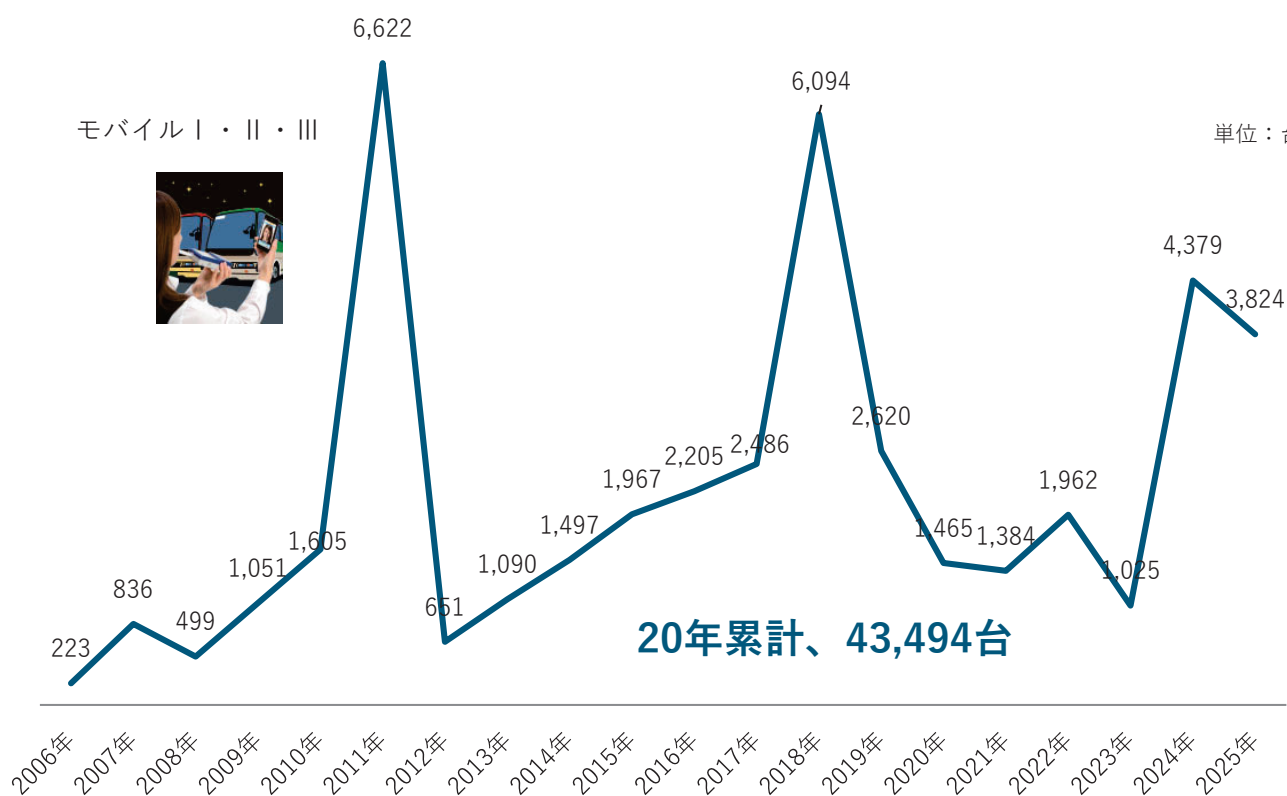
機種ごと推移（設置型 ALC-miniIV）

単位：台



機種ごと推移（ALC-Mobileシリーズ）

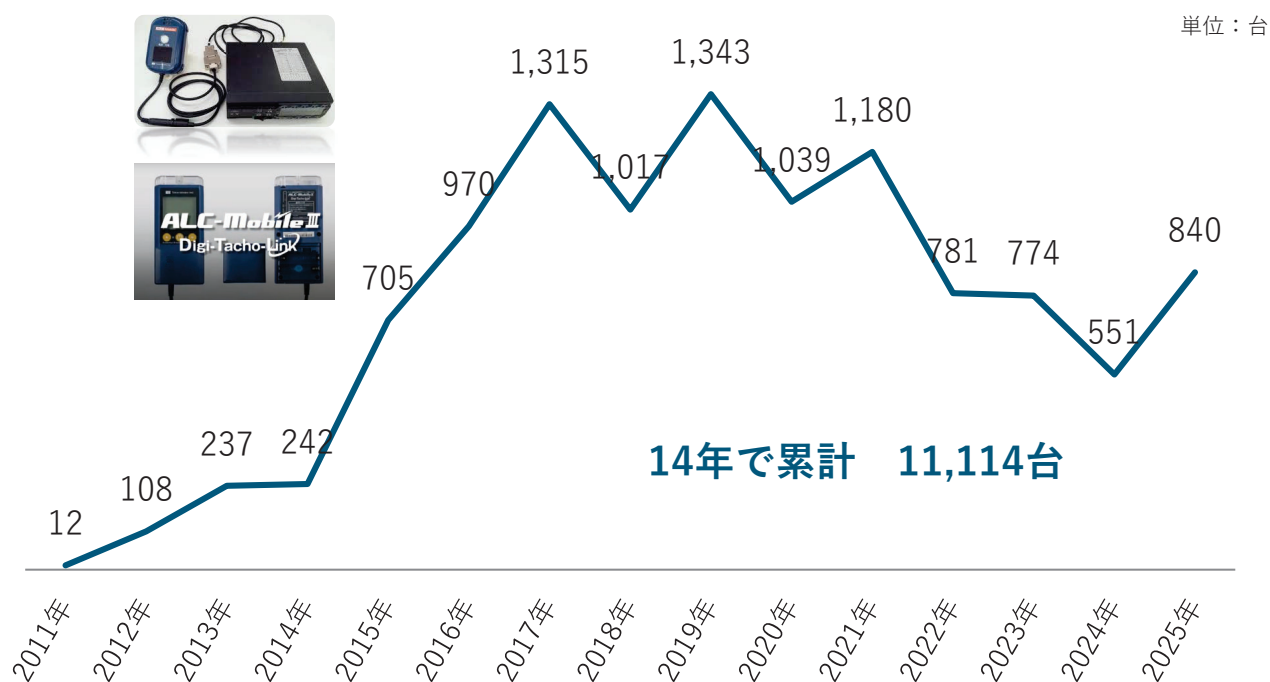
単位：台



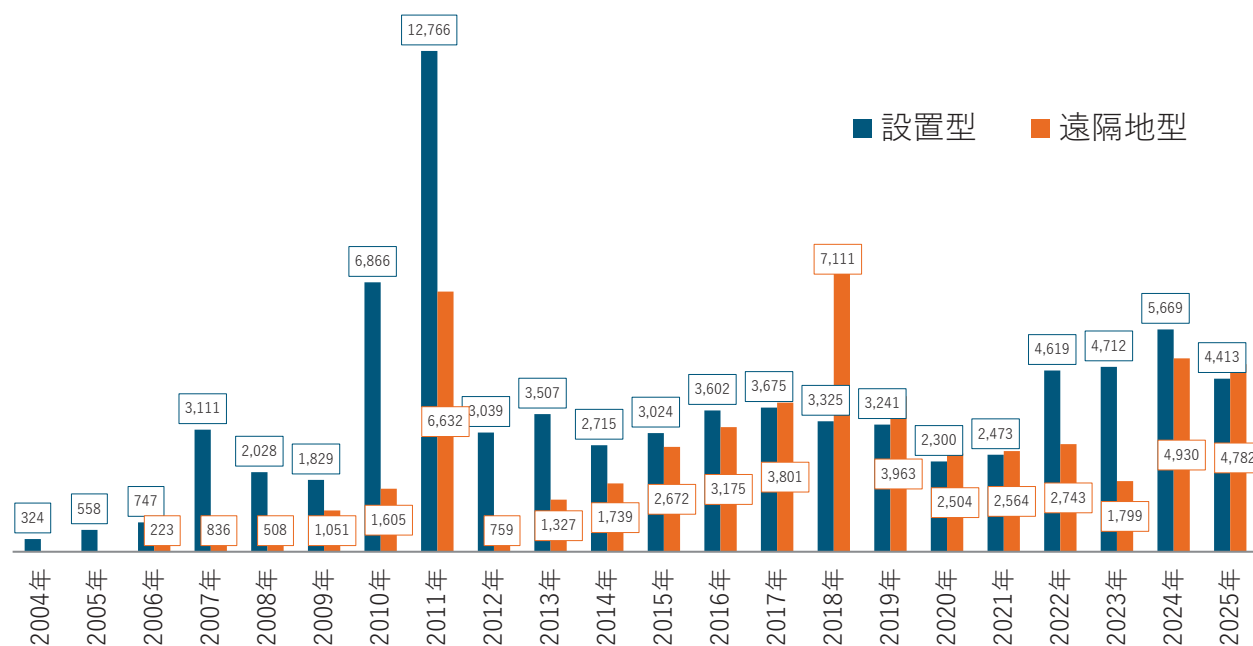
機種ごと推移（アルコールインターロック装置）



機種ごと推移（デジタコ接続アルコール検知器）

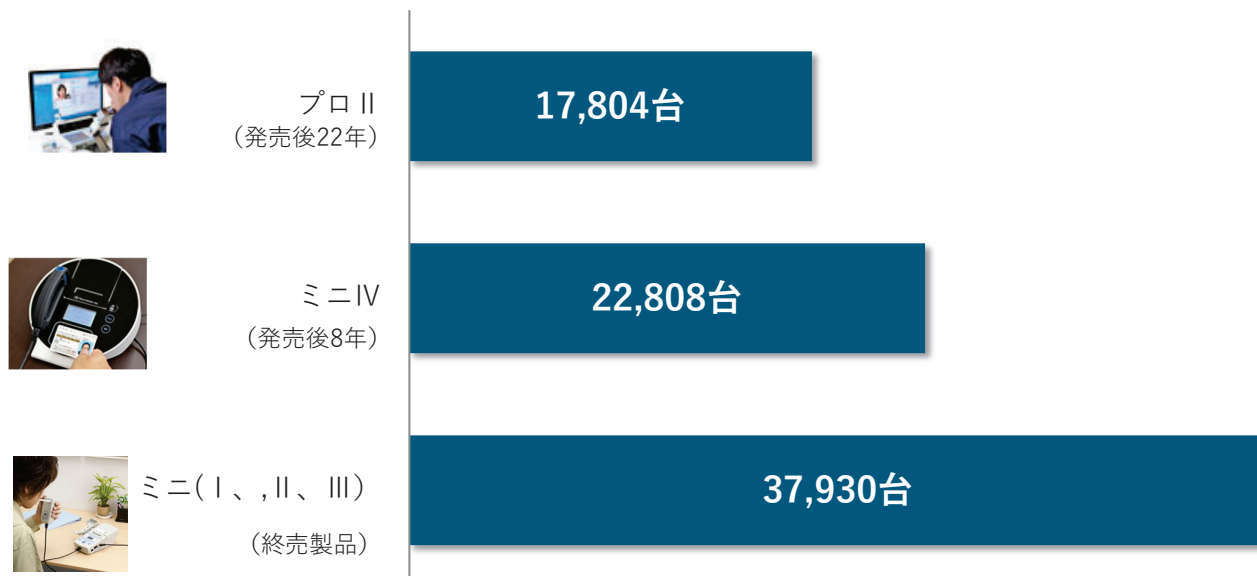


設置型アルコール検査器と遠隔地型（車載型）アルコール検査器 (2003～2025)



遠隔地型は、車両数や従業員数によって導入数がまちまちである。2台使う企業もあれば、200台使う企業もある。一方設置型は、ほぼ一営業所に一台がほとんどである（希に多人数処理のため、2台並べて使うケースもある）。従い、基本、1社あたりの導入数は、**設置型<遠隔地型** となる。2025年度は、**遠隔地型が設置型を上回った**。

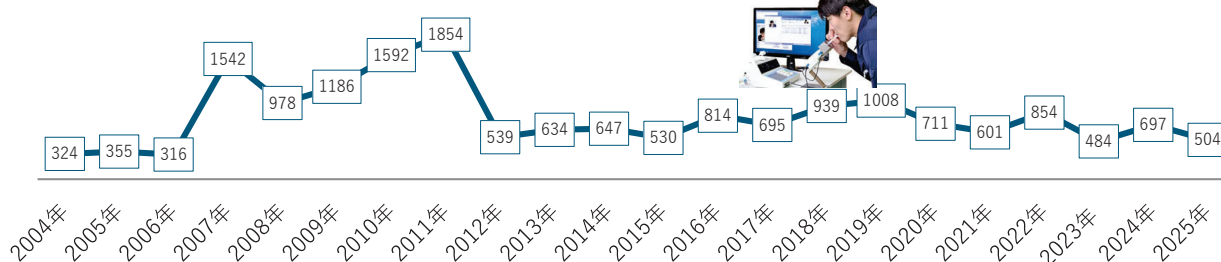
記録型・事務所設置型 呼気アルコール検査器とは？



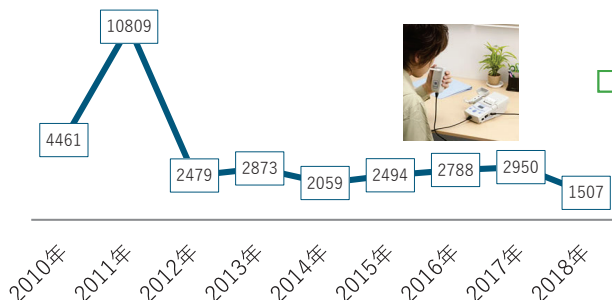
2004年～2016年まで販売していたMiniシリーズ（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）のうち、ALC-miniⅢは8万円台という価格から、3万台以上の実績となった（すでに終売）。後継機ALC-miniⅣは免許証リーダー内蔵が好評で、発売以降順調に実績を伸ばし、8年目の今年**累計2万台を超えた**。PC接続タイプは30万円前後という高価格帯ながらも、身代わり防止力が強いいためか、管理強化ニーズにマッチし、ロングセラーとなっている。

記録型・事務所設置型呼気アルコール検査器

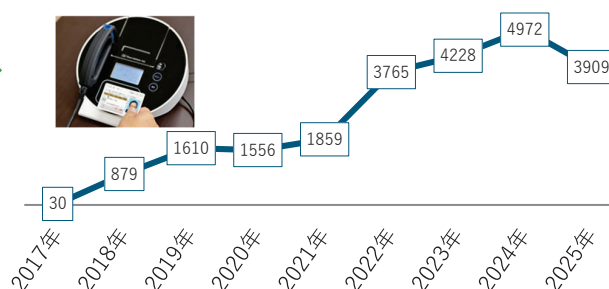
単位：台



ALC-Miniシリーズ第三世代（ALC-miniIII）



ALC-Miniシリーズ第四世代（ALC-miniIV）



ALC-PROは「プロ事業者」向けの堅実な製品として、高価格帯ながらも22年にも及ぶロングセラーとなっている。固定設置型・PC接続型のニーズは一定数あることが証明されていると言える。また、自動点呼やICT運行管理機器との相性もよく今後も堅調さが期待できる。

エントリーモデルであるminiシリーズは、第IV世代から、運転免許証リーダー内蔵・ICカード対応型となった。白ナンバー義務化の特需が昨年完全に集束したため、発売以降はじめて前年比減となった。

遠隔地型アルコール検査器とは？



スマホ接続型

43,494台

デジタコ直結

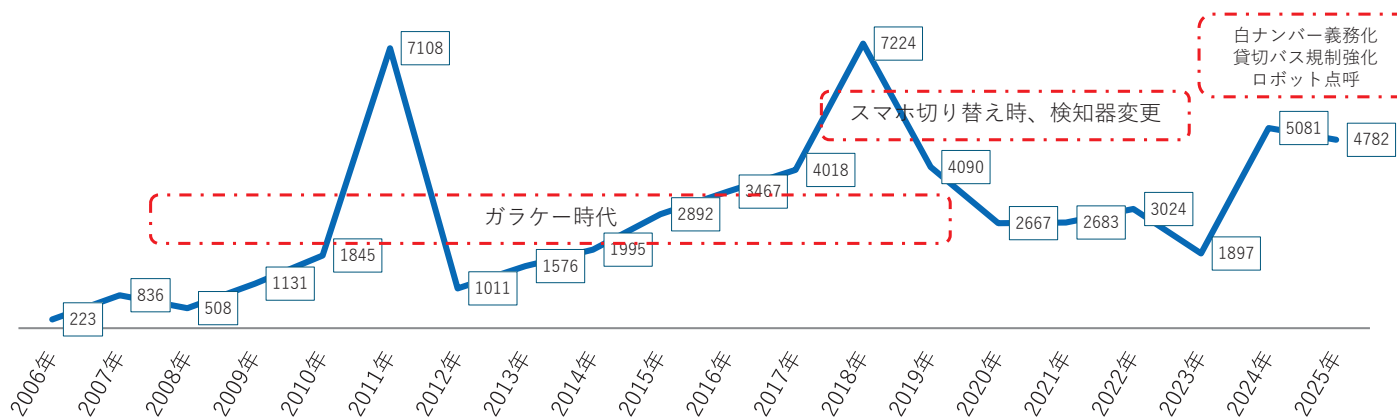
11,114台

アルコールインターロック

3,452台

単位：台

【遠隔地型アルコール検査器 3機種合計 年度ごと実績】



当社の遠隔地型は3機種ある。白ナンバーアルコール検査義務化前後に競合品が増え競争力が落ちたかに見えたが、一部大型案件や緑ナンバー（貸切バス）規制強化、ロボット点呼の規制緩和等により、前年比減ながらも、引き続き高水準で推移している。アルコールインターロックは、トラックでの装着は伸び悩んでいるが個人の飲酒運転者（家族装着）の比率がやや増えてきている。

本資料に関するご注意

本資料中の200X年とは、当社の会計年度、10月～9月決算期を指します。（例① 2020年＝2019年10月～2020年9月 例②2025年＝2024年10月～2025年9月）。2025年10月、11月の実績は含まれていません。

本資料中の「設置型」「記録型」「簡易型」「遠隔地型」等の、機器タイプのカテゴライズは当社によるものです。国土交通省や他メーカーの定義とは異なっている可能性があります。

本資料は、「他者製品への買い換え」「使用停止」等、解約台数は差し引かれておりません。従い、現在の稼働数は、本資料の実績よりもやや少ない数字となっています。

本資料中の「実績」とは、企業が新規に本体を導入する、導入済みの企業が本体を追加する（いわゆる増設）、新たな世代に買い換える等を指し、「校正」としてのアルコールセンサー出荷数は含まれておりません。